

海外安全対策情報
2016年1月～3月

在オークランド総領事館

1 治安情勢・一般犯罪の傾向

(1) ニュージーランド国内の治安情勢

ニュージーランド国内では、これまで大きな治安上の問題は起きていません。しかし、犯罪の発生率については、日本のそれと比較した場合、犯罪認知件数自体はやや減少傾向ではあるものの依然として高く(2014年のNZ全土における犯罪の発生率は日本の約8.6倍)、防犯対策には十分な注意が必要です。

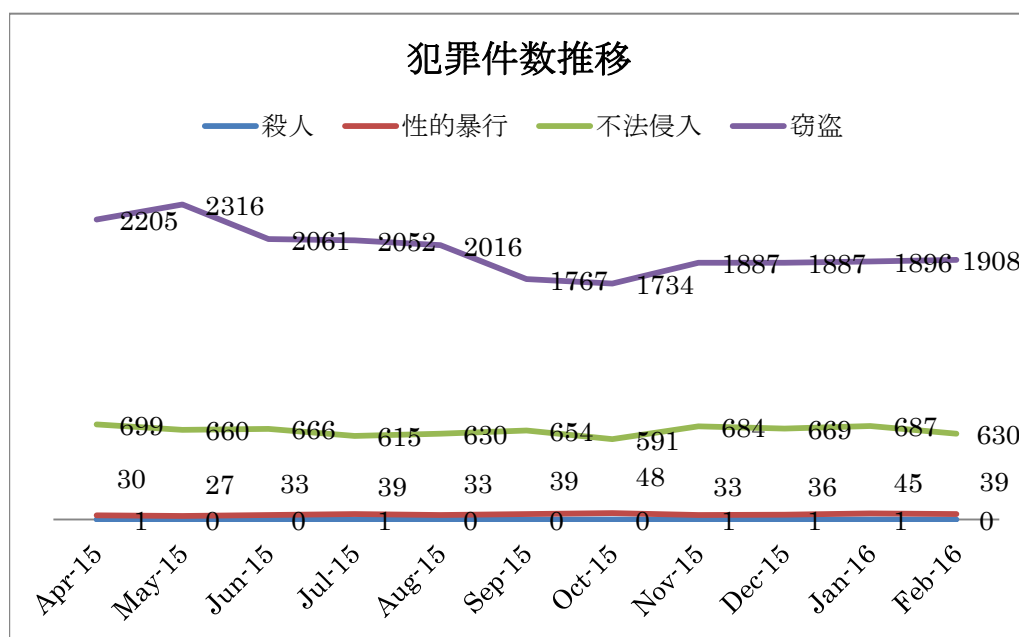
(2) 深刻な盗難被害

2016年3月、当地紙 NZ HELARD は「いかに盗難被害を防ぐか」と題するスペシャルシリーズを掲載しました。

このシリーズではニュージーランド全体で住居侵入による盗難事件が、昨年1年間で164件/日も発生しているとして、被害状況・警察による捜査・犯人の声などを詳細にリポートしています。このシリーズの概要を日本語でまとめましたので、[こちら](#)からご覧ください。

(3) オークランドの犯罪傾向

オークランド警察が発表した犯罪件数の推移は次の通りです。



2 テロ・爆弾事件発生状況

(1) ニュージーランド国内には、テロ組織及び反政府武装勢力の存在は確認されておらず、国外のテロ組織と関連を有している勢力の存在も確認されていません。しかしながら、2014年11月、ジョン・キー首相はISILに関する講演の中で、「ニュージーランド国民は国際テロリズムの危機と脅威にさらされている」と発言しています。

(2) ニュージーランド政府は2015年2月にイスラム過激派組織I S I Lと闘うイラク軍の能力を高めるため143名の軍人派遣を決定しました。これに関連して、キー首相は「すでにI S I Lはニュージーランドで要員のリクルートに成功しており、またニュージーランド国内では35～40名が監視対象となっている」旨発言しています。

(3) 2015年11月にパリで発生したテロ事件を受け、キー首相は次のように述べています。

「ニュージーランドは他国から地理的に離れていること及びインテリジェンス監視ネットワークに加盟していることもあり、他国と比べ、テロリストから攻撃を受ける脆弱性は低い。しかしながらテロリストの間で行われる精巧な通信技術の高まりにより、その活動を探知することが困難な状況となっており、ニュージーランドがまったく影響を受けないという保障はない。政府はニュージーランド国民に対して、全力を尽くす責任を負っており、異常で不適当と考えるいかなる行動についても監視するが、その全ての情報を得られるという保証はない。」

(4) なお、現在ニュージーランドのテロ脅威度は『とても低い(6段階中下から2番目)』から『低い(6段階中下から3番目)』に一段階上昇しています。

3 主な犯罪事案(日本人が巻き込まれていない案件)

(1) 1月10日、ハミルトンで性的暴行事件が発生。タクシーを待っていた20歳の女性が見ず知らずの男性の車に乗車したところ、郊外に連れて行かれ暴力を受ける。警察は23歳の男性を誘拐と性的暴行の容疑で逮捕。

(2) 1月31日夕刻、マヌカウのマングレ(Mangere)で発砲事件が発生。40人ほどのグループが公園でお酒を飲んでいたところ、突然銃を所持した男が現れ、銃を発砲。3人が足に重傷を負い、病院に運ばれた。

(3) 2月3日午前4時頃、マヌカウのマヌレワ(Manurewa)で警察官が怪しい車に職務質問したところ、助手席の男が銃を発砲。警察官に怪我はなかったものの、犯人は逃走中。

4 主な日本人被害事案

場所 オークランド・クィーンズストリート 被害者 30代女性

夜中2時頃、友人と徒歩で帰宅していたら、女性4人に囲まれた。バッグを奪われそうになったので抵抗したら殴る蹴るの暴行を加えられ、顔や腕に重傷を負った。偶然現場を通りかかった警察官により犯人は逮捕される。犯人は13～15歳の若者であった。